

講演会より

～近世京都の教育文化と番組小学校～

平成22年1月17日、京都大学大学院教育学研究科教授の、辻本雅史先生を講師として、講演会を開催しました。その概要は次のとおりです。



近世に入り、日本の政治権力の中心は江戸に移り、経済の活発な都市は大阪となり、京都は危機を迎えた。

しかし、そのような危機においても、政治権威(朝廷)・文化・学問・伝統産業の中心は京都であり、それを維持し伝えてきた人々の力が根底にある。

京都は江戸時代から武士が少数であったため、政治権力から比較的自由であり、経済が活発化し、また伝統産業が職人たちの力で守られており、文化的にも重要な都市であった。それが町衆の力となっていく点で、全国でも稀な都市として注目に値する。

さらに、各宗派の本山が京都に集中しており、全国から多くの修行僧が京都にやってきて修行を積んでいったという学術都市・宗教都市としての役割があり、観光都市として繁栄してきたことが増々商業の活性化につながった。

昔から京都の人々は自治意識が強く、自分たちの生活をより良くしていくという意識が、全国初の公教育、つまり学区制の小学校(番組小学校)の設立につながっていったと考えられる。教育によって優秀な人材を育て、社会を良く

していくということに早くから人々は気づいていた。

講演を拝聴し、改めて町衆の力が番組小学校をつくりだしていったのだということを認識することができました。

過去の企画展より **学校を掘る ～まなびやの下の京都～** 平成21年9月18日(金)～12月14日(月)

地中に埋もれた文化財は、永い年月の京都の町の営みを浮かび上がらせてくれます。

京都市立学校の敷地の調査はこれまでに200回以上も行われ、成果をあげてきました。

この企画展では、その成果を、財団法人京都市埋蔵文化財研究所と京都市考古資料館の協力を得て、約60校の遺跡の写真と出土遺物で紹介しました。遺跡は、今も写真でしか見るのでないものであり、周りの風景や学校の校舎や設備の一部が写っているのも興味深いものでした。また、出土遺物は、縄文時代から近代までのたくさんの遺物の中から、生活雑器を除いて「学校の下のかからもの」を選びました。

これらの貴重な資料から、京都の歴史と文化の奥深さを考えていただけたことでしょう。



江戸時代の遺構
から出てきた伊
万里の鼓形土器
御所南小学校
京都市考古資料館蔵



江戸時代の金属関連工房が見つかった
元 柳池中学校 (現 京都御池中学校)
(財)京都市埋蔵文化財研究所



「齋宮」の字が書かれた墨土器
(平安時代) 西京商業高等学校
(現 西京高等学校)
(財)京都市埋蔵文化財研究所



綾部向付
(江戸時代)
元 竹間小学校
京都市考古資料館蔵



墨書人
(平安時代)
七条小学校
京都市考古資料館蔵

講演会

「校庭に眠るいにしへの京都」

講師：財団法人京都市埋蔵文化財研究所

丸川義広 氏

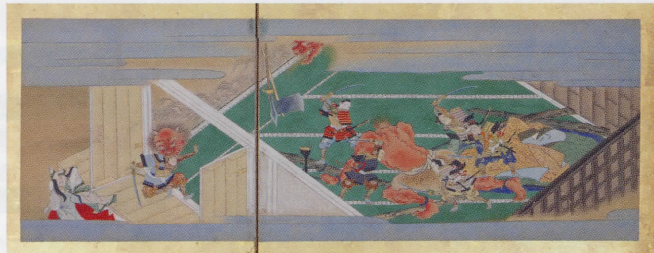
平成21年11月22日(日) 13:30～15:00



堀河院池跡(平安時代) 元 城巽中学校
(財)京都市埋蔵文化財研究所

京都市立学校の敷地の発掘調査の成果を、豊富な写真や資料を使ってお話いただきました。

併設展示「学校のたからもの～歴史を彩る人々～」



酒呑童子絵巻貼付屏風 元 富有小学校蔵